

巻 頭 言

ご 挨拶

会長 関田 一彦
(創価大学教育学部長)

この度、長島先生のあとを受け、創価大学教育学会の会長となりました関田です。一言、巻頭言に代えてご挨拶申し上げます。

私はもともと文学部の卒業ですので、教育学は専門ではありませんが、学習者間のグループダイナミクスについて、長い間、研究的関心をもって参りました。中でも、学習者間に肯定的あるいは互恵的な相互依存関係を築き、生産的な相互交流を促進する「協同学習」と呼ばれる学習指導方法の実践的研究に注力してきました。人は人との関わりの中で学び、成長していきます。一人で勉強しているような時でも、その学びの文脈には様々な人が関わっているのが普通でしょう。自らの学びが誰かの役に立つという感覚は、さらなる学びのエネルギーになります。

私は長く創価大学のFDに関わってきました。その中で、人間教育に資する授業方法の模索・提案を続けてきました。単位を取るために静かにノートを取り、周囲と関わりなく90分間、独り講義を聴きいて過ごすのが創価大学の目指す授業ではないと思っています。教師との質疑応答や学友との議論を通じた対話的な学びが必要でしょう。そのための一つの方法として協同学習を紹介してきました。

協同学習は、教師主導の一斉学習に対する優位性を繰り返し証明しながら発展してきました。最近ではアクティブラーニングと呼ばれる授業方法の典型として現場に受け入れられています。ただ一方で、グループで活動させればアクティブラーニングになると勘違いしている実践も多いのが実際です。協同学習には様々な技法がありますが、教師教育を考えると、表面的な教育技術の修得に止まらず、そうした技術・方法を用いる目的の深化が大きな課題だと思います。

教育学部長が本会の会長を兼務するという大学の方針に沿って、私は会長職をお引き受けいたしました。由緒ある本会の発展に少しでもお役に立てればと願うばかりです。本会は人間教育の最高学府たらんとする大学で学んだ教育者の皆さまが、数多く参集されている会です。また、人間教育を学び深めるための研究を志す方たちで運営されている会です。そして、コロナ禍を乗り越えた先に広がる、新しい教育の地平を拓き行く可能性に満ちた会です。改めて本会の発展に関われる幸せに感謝し、会長就任の挨拶といたします。